

大断面集成材で木造事務所

サミットHR 最大10.5mスパン

ナカザワ建販

ナカザワ建販（大阪府岸和田市、中澤秀紀社長）は13、14の両日、本社・本店の新社屋である和泉中央新事務所の完成見学会を開いた。

木造2階建て（延べ床面積998・82平方メートル）の同事務所の躯体には、北海道産カラ松の大断面集成材約112立方メートルを使用。SMB建材（東京都、角柄明彦社長）のサミットHR工法を採用することで最大10・5メートルのスパンを飛ばし、広々とした無柱空間を実現している。設計は徳岡設

計（大阪市、徳岡浩二社長）、施工はナカザワ建販のグループ会社であるレビック（堺市、佐々木博社長）がそれぞれ担当した。25日から同事務所での営業を始める。和泉中央新事務所は、阪和自動車道の岸和田和泉インターチェンジの近くに位置する。1万4532平方

メートルの敷地に、同事務所のほか、システム鉄骨製の2階建て倉庫1棟（建築面積2746・30平方メートル）と平面駐車場（収容台数141台）を配置している。

ナカザワ建販は、本社・本店の社員数が1000人を超え、倉庫や事務所もそれなりの建物が必要となったことから、創業者である中澤伸文会長が5年前に新築で移転することを決めた。当初は、倉庫も木造で建築することを検討していたが、コ



完成した和泉中央新事務所。ファサードがガラス張りで開放感がある

ストや時間の制約から、事務所のみを木造で建てることにした。建物は、延べ床面積が1000平方メートル以内のため、現しとしても燃えしる設計が不要だ。屋根面の水平剛性はターンバックルプレスにより確保。2階床面は床下地を兼ねる。主要断面は梁が225×900ミリ。木造建築だが住宅感が出ないよう、内装や家具などもデザイン性が高いものを設置し、若い人が働きたいと思えるように工夫した。ファサード面はガラス張り。内部の木造躯体である大断面集成材が見えると

同様に、周りの風景も映り込み、開放感がある。社員の昼食休憩場や来場者の喫茶室となる「メイプルカフェ」は、内装に木質建材を多用し、明るく気軽にリフレッシュできる空間になっている。会長・社長室にはムク材やツキ板（チェリー）などを使用しているほか、応接室にも木質建材を多用している。

同様に、周りの風景も映り込み、開放感がある。社員の昼食休憩場や来場者の喫茶室となる「メイプルカフェ」は、内装に木質建材を多用し、明るく気軽にリフレッシュできる空間になっている。会長・社長室にはムク材やツキ板（チェリー）などを使用しているほか、応接室にも木質建材を多用している。